

令和 5 年 第 25 回

沼津市二十歳の議会会議録

令和 5 年 1 月 8 日 開会

令和 5 年 1 月 8 日 閉会

沼 津 市
沼津市教育委員会

令和5年(第25回) 沼津市二十歳の議会 議員名簿

番号	校区	氏名	ふりがな	質問内容
1	第一	長瀬 優樹	ながせ ゆうき	
2	第二	富田 愛夏	とみた あいか	
3	第三	大原 伊織	おおはら いおり	
4	第四	芹澤 隆太	せりざわ りゅうた	
5	第五	柳内 雄翔	やない ゆうと	
6	門池	芳賀 愛子	はが あいこ	
7	金岡	永田 稜弥	ながた りょうや	
8	大岡	村木 照太郎	むらき しょうたろう	沼津市の水産業振興の取り組みについて
9	愛鷹	小野 隆太郎	おの りゅうたろう	
10	片浜	石川 結麻	いしかわ ゆま	
11	今沢	田尻 勇人	たじり はやと	議長
12	静浦	守屋 佑紀	もりや ゆうき	子育て支援への取り組みについて
13	長井崎	真野 将希	まの まさき	
14	原	殿岡 連	とのおか れん	
15	浮島	杉山 龍輝	すぎやま りゅうき	
16	戸田	山本 菜々子	やまもと ななこ	小中一貫教育の現状について
17	市立	佐々木 亮太	ささき りょうた	
18	暁秀	趙 子毅	ちょう しき	

二十歳の一言 テーマ：わたしにとっての沼津の「きらり」

令和5年(第25回) 沼津市二十歳の議会 議場出席者名簿

	職名	氏名
1	市長	頼重 秀一
2	副市長	吉澤 勇一郎
3	副市長	塚本 秀綱
4	教育長	奥村 篤
5	企画部長	杉山 康
6	財務部長	岩瀬 宗一
7	市民福祉部長	久保田 弘行
8	産業振興部長	湯川 真由美
9	生活環境部長	加藤 忠彦
10	都市計画部長	真野 正実
11	沼津駅周辺整備部長	平野 明文
12	建設部長	杉山 泰彦
13	水道部長	原 恵子
14	市立病院事務局長	後藤 鉄也
15	監査委員事務局長	秋山 幸宏
16	教育次長	山本 貴史
17	危機管理監	土屋 剛彦
18	福祉事務所長	土屋 仁志

令和5年（第25回）沼津市二十歳の議会 会期日程

日数	月 日	曜日	開議時刻	区 分	内 容
1	1月8日	日	14時	本会議	開会、会期の決定、一般質問 二十歳の一言、閉会

令和5年（第25回）沼津市二十歳の議会 議事日程（第1日）

令和5年1月8日（日曜日） 14時 開 会

第1 会 期 の 決 定

第2 一 般 質 問

第3 二 十 歳 の 一 言

令和5年（第25回）沼津市二十歳の議会 質問通告一覧

令和5年1月8日

順番	氏名	要旨	答弁者
1	12番 もりや ゆうき 守屋 佑紀	1 子育て支援への取り組みについて	市長
2	16番 やまもと ななこ 山本 菜々子	1 小中一貫教育の現状について	教育長
3	8番 むらき しょうたろう 村木 照太郎	1 沼津市の水産業振興の取り組みについて	市長

令和5年（第25回）沼津市二十歳の議会会議録

令和5年1月8日（日曜日）午後2時 開会
於 議 場

○会議

○議長（田尻 勇人）

ただいまから、令和5年第25回沼津市二十歳の議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

この際、諸般の報告をいたします。

当局から、自己紹介を求められておりますので、二十歳の議会議員への自己紹介を許可いたします。

○当局

当局出席者が、各自、自己紹介

○議長（田尻 勇人）

以上で諸般の報告を終わります。

○議長（田尻 勇人）

本日の議事日程は、お手元に配付してございますので、ご了承願います。

○議長（田尻 勇人）

日程に入ります。

日程第1、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

本二十歳の議会の会期は、お手元に配付してございます日程表のとおり、本日1日限りといたしたいと思えます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

ご異議なしと認めます。

よって、本二十歳の議会の会期は、本日1日限りと決定いたしました。

○議長（田尻 勇人）

次に、日程第2、一般質問を行います。発言の通告がありますので、順次発言を許します。

○議長（田尻 勇人）

12番 守屋 佑紀 議員。

○12番 守屋 佑紀 議員

子育て支援への取り組みについて質問させていただきます。

沼津市総合計画では、沼津市の主要課題として、定住人口の確保が挙げられていますが、人口推計では、2030年の0歳から14歳の年少人口は14,554人と10年前と比べ、約5,000人減少することが見込まれています。

また、市内小学校の児童数も減少傾向にあり、私の母校である静浦小学校についても、在学途中に小中一貫学校に移行するなど、地域から子どもが減っているということを実感しています。

私は、沼津市が今後も持続可能な街として、定住人口の減少に歯止めをかけるには、若者世代にとって沼津が子育てしやすい環境だと認識してもらい、出生数及び転入数の増加を図る必要があると考えます。

そこで質問致します。若者世代が安心して子育てできるために沼津市が取り組んでいる子育て支援策がありましたらお聞かせください。また現状を踏まえた上での今後の方針をお聞かせください。

○市長（頼重 秀一）

本市が取り組んでいる子育て支援策についてお答えします。

はじめに、守屋議員ご指摘のとおり、本市が定住人口を確保しつつ、持続可能な市として活力を維持していくためには、出生数と転入者数を更に増やしていく取り組みが必要であります。

そのためには、皆さんのような若者世代に、安心して「沼津市で子育てしたい」と思ってもらえることが重要であります。

現在、子育て世代を取り巻く状況は、育児に対する不安や負担の増加、核家族化の進行やひとり親世帯の増加による孤立化、仕事と子育ての両立等が課題となっております。

これらの課題に対処し、若者世代が安心して子育てできるよう、本市では結婚・妊娠・出産・育児の4つの段階それぞれで、市による特色ある支援を行っております。

1つ目の結婚段階の支援として、新生活を開始する際に住宅の取得や賃借、引越に係る費用の助成を行っております。

2つ目の妊娠段階の支援として、初めての妊娠で不安な気持ちを解消するために、保健センター内に「マミーズほっとステーションぬまづ」を設置し、妊娠・出産・育児に関するワンストップで相談ができる体制を確保するとともに、妊娠・出産の正しい知識を身に付けることを目的に「パパとママの教室」を開催しております。

また、不妊症や不育症の治療に係る経済的負担を軽減するため、医療費の助成を行っております。

3つ目の出産段階の支援として、病院施設において、心身のケアや授乳、沐浴等、母子に対するサポートを実施したり、育児に不安を持つ方の自宅に助産師が訪問し、支援や介助を行う産後のケア事業を行っております。

4つ目の育児段階の支援として、各種保育サービス等に関する相談を行う、子育て世代包括支援センターを設置するとともに、「子育てコンシェルジュ」を配置し、子育てに関する様々な相談に対応しております。

また、市内 10 か所に子育て中の親子が自由に遊び、情報交換ができる子育て支援センターを設置し、育児や子育てにおける不安や孤立感等の解消を図っております。

さらに、子どもを安心して預けられる場所である保育所や放課後児童クラブ等の施設整備を進め、令和2年度からは保育所・放課後児童クラブともに待機児童ゼロを達成しており、安心して子どもを預けて働ける環境を整えております。

また、費用面の支援として、こども医療費助成制度を拡充し、0歳から18歳までの入院や通院にかかる医療費を無料とする、こども医療費の無償化を実施しております。

これら子育て支援策に係る情報発信については、実際の子育て中のパパ・ママと協力し、子育てポータルサイトや公式 SNS アカウントを開設し、子育て関連情報や、保育園等の施設情報、各種手続き等の情報の発信に努めています。

現状を踏まえた今後の方針については、核家族化や地域のつながりの希薄化等により、地域において子育て世代を支える力が弱くなってきていると考えております。

特に、最近においては、コロナ禍も3年目となり、これまでの感染症拡大防止対策等による行動制限により、その傾向はより色濃くなっているものと考えます。

市としましては、身近に相談ができる窓口を確保するとともに、子育て中の皆さんを支え、切れ目なく支援していけるよう施策の充実を図ってまいりたいと考えております。

今後も、安心して子どもを産み育てられるまちの実現を目指し、様々な施策に取り組んでまいります。

○議長（田尻 勇人）

16番 山本 菜々子 議員。

○16番 山本 菜々子 議員

小中一貫教育の現状について質問させていただきます。

現在、少子化が進んでおり全国的に小中一貫校が増加しています。沼津市でも静浦小中一貫学校をはじめとし、私の故郷でもある戸田でも小中一貫教育が行われています。私は将来、中学校教員を目指し教育学部に所属しているため、母校が小中一貫校になると知り、とても興味を持ちました。それから、小中一貫教育について自分なりに調べてみる機会が多くなり、メリットとデメリットに

ついて注目しました。

まず、小中一貫教育のメリットとしては、児童生徒の学習意欲の向上や「中1ギャップ」の解消、いじめや不登校、暴力行為の減少などが挙げられます。

しかし、デメリットも考えられます。小学校においては、高学年がリーダーシップを発揮し、活躍しますが、小中一貫教育においては、高学年の児童がリーダーシップを発揮する場が少なくなり、自主性や積極性が育ちにくいという面があります。また、小中合同の活動時に、小学生に合わせた表現や動きになり、中学生に必要な判断力や自主性を養う場が少なくなる可能性もあります。

そこで質問します。小中一貫教育には多くのメリットがありますが、デメリットもあります。これらのデメリットに対し、どのように考えているのか教えてください。

○教育長（奥村 篤）

小中一貫教育の現状についてお答えします。

沼津市では、教育基本構想において、「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」を目指し、その施策の方向性として「人間力を磨く教育」と「地域総がかりで取り組む教育」を2本の柱として進めています。

そのような中において、小中一貫教育は、施設一体型や施設隣接型、施設分離型がありますが、いずれも系統的な学びを実践することで、確かな知性を育成できる、とても重要な取組であると考えています。

本市においては、平成15年度から、第五中学校区内にある2つの小学校と中学校が連携して子供を育てる教育の研究を開始したことを皮切りに、令和元年度からは、全ての中学校区において「義務教育9年間で子供を育てること」に重点を置いた小中一貫教育に取り組んできました。

また、平成26年4月には、新築の施設一体型としては県内公立校で初となる「静浦小中一貫学校」を開校しました。

静浦小中一貫学校では、小中一貫教育の研究指定校として、「9年間の一貫した教育を通じて子供をより良く伸ばす」研究に取り組んでおり、開校時に入学した1年生は今年9年生として在籍しています。

さらに令和3年4月には、山本議員の出身である戸田中学校区や、長井崎中学校区においても施設一体型小中一貫学校を開校しました。

小中一貫教育には、学校間で経営理念や運営、学習指導、生徒指導等の方針を共有した上で子供たちの指導にあたるため、教育のベクトルを揃え、小学校、中学校の組織文化を乗り越えた取組を行うことができるメリットがあります。

また、様々な活動における活発な小中学校の交流や教員同士の積極的な乗り入れ授業等を通じて、入学から卒業まで、9年間の学びの系統性や連続性を確保した教育活動が可能となります。

こうした取組を通じ、児童が中学校という新しい環境での学習や生活に移行する段階で不安を抱き、不登校等が増加したりする、いわゆる「中1ギャップ」の解消も期待されています。

その一方で、特に施設一体型の場合、ご指摘いただいたように、小中学生が同じ校舎で生活し、様々な行事等を一緒に行うことが増えることにより、小学校高学年がリーダーシップを発揮する場面が少なくなることが懸念されます。

また、中学生が小学生に合わせた表現や動きが必要となること等により、結果としてそれぞれの学年に求められる自主性、積極性、判断力等を養う場面が少なくなるとも懸念され、デメリットとして捉えています。

こうした懸念を解消するため、本市では、従来までの「小学校1年から6年まで」と「中学校1年から3年まで」の2つの学年集団を、「小学校1年から4年まで」と「5年から中学校1年まで」そして「中学校2年と3年」の3つの学年集団に編成し、各集団におけるリーダー育成の機会を増やすことにより、デメリットをメリットに変える取組を行っています。

静浦小中一貫学校及び長井崎小中一貫学校におきましては、この学年集団を初めての志と書いて「初志部」、立つ志と書いて「立志部」、大きな志と書いて「大志部」とし、戸田小中一貫学校におきましては「初等部」「中等部」「高等部」と名付けています。

本市におけるこれらの取組の成果として、今年開校9年目を迎えた静浦小中一貫学校では、児童生徒の学力の向上だけでなく、地域への関心、自己肯定感の向上も見られました。

さらに地域や保護者からも、「中学生が小学生と仲良くする姿は見ていて微笑ましい」「色々な先生に関わってもらえるようになった」等の声をいただいています。

また、戸田小中一貫学校では、昨年3月に児童生徒、保護者及び教職員を対象としたアンケートを行いました。それによると、小規模校でありながら「多くの友達と触れ合うことができている」「子供たちが多様な意見と接する機会が増えた」等の回答が多く寄せられました。

また、教職員からは、「様々な人と関わることで、以前より自分の意見を堂々と話せるようになった」「相手に対する気遣いや寛容さが身に付いた」等、学年集団による活動成果の報告を受けています。

今後におきましても、こうした取組をはじめ、小中一貫教育を通じて学校教育における確かな学びの育成を実現してまいりたいと考えています。

山本議員におかれましては、中学校教員を目指されているとのことであり、本市の学校教育についても高い関心をお持ちであることを大変うれしく思います。

是非、大学を卒業した後は、「貴き志を持つ人」づくりに取り組む本市におきまして、生まれ育った地域に対する愛着と情熱を持ち、小中一貫教育の担い手として大いに活躍されることを期待しています。お待ちしております。

○議長（田尻 勇人）

8番 村木 照太郎 議員

○8番 村木 照太郎 議員

沼津市の水産業振興の取り組みについて伺います。

今日、地域温暖化などの気候変動、加えて気候変動に端を発した生態系の変化などが世界的な問題になっています。ここで例に、沼津市にゆかりのあるマアジを取り上げますと、水産庁による令和3年度マアジ太平洋系群の資源評価報告書では、マアジの資源量が減少傾向を示していることが報告されております。過去には10万トンを超えるマアジの漁獲高が報告された年がありましたが、2020年の資源量は3.3万トンにまで落ち込んだとのデータもございます。このように、様々な要因に起因して地域資源のおかれている状況が大きく変化していることは明らかであります。

また、日本人の「魚離れ」も進んでおり、厚生労働省の調査によると、平成18年以降、日本人は魚類の摂取量が肉の摂取量を下まわっているとのデータもあるほどでございます。

近年、このような水産資源の減少や魚食離れに加え、コストの高騰など水産業を取り巻く環境が一段と厳しさを増す中、沼津市の基幹産業の一つである水産業の更なる振興を図るとともに持続可能なものにしていく必要があると考えます。

そこでお尋ねします。沼津市では、水産業振興についてどのような取り組みをされているのか伺います。

○市長（頼重 秀一）

水産業振興の取り組みについてお答えします。

沼津市は、日本一深い湾であり、世界で最も美しい湾クラブに加盟している駿河湾に面し、63Kmもの変化に富んだ海岸線を有しており、古くから豊かな自然の恵みを生かした水産業が盛んな地域であります。本市の水産業は、沼津港で最大の水揚げ量を誇るサバを主とする漁船漁業をはじめとして、江戸時代に三代将軍家光公にタイを献上するため、海辺を池状にくり抜き、魚を短期間飼育したことが起源とされるマダイ等の養殖業や、晴天日が多く温暖なこと、また冬季には南西方向から吹く強い季節風などの自然条件に、豊富な漁獲量がかみ合った「あじのひもの」に代表される水産加工業など、多様であります。

また、戸田地区においては、駿河湾の深海で獲れるタカアシガニやメヒカリなどの深海魚が特産品であります。

このようなことから、水産物流の拠点である沼津魚市場は、水揚げと陸送とも全国的にも有名で、また、静岡県東部第一の魚市場として発展してきました。周辺には、水揚げされた新鮮な魚を食べることができる多くの飲食店があり、沼津港は年間166万人もの観光客が訪れる沼津随一の観光スポットとなっています。

村木議員が指摘されている気候変動による生態系の変化や資源量の落ち込みが問題となっておりますが、本市でも、潮流の変化の影響を受けて漁場が遠のいたことにより、市内大型船の水揚げ量が減少傾向に、また、出漁コストの高騰などにより、小型船や中型船の出漁の回数が減少傾向にあるなど、漁業環境は厳しいものとなっております。

このような現状に対し、本市といたしましては、本市の重要な基幹産業の一つである水産業を維持・持続し、さらに足腰の強いものとするために、水産業関係団体と連携して、多面的に振興策を講じているところであります。

まず、生産者である漁業者への支援の取り組みにつきましては、市内の魚市場への水揚げ量を促進するため、15トン以上の大型船には水揚げ金額に応じて、また15トン未満の小型船や中型船には、水揚げ回数に応じた奨励金を交付し、消費の拡大・流通の促進を図っております。

また、水産資源の確保や安定を図るため、漁業協同組合などが行うマダイやヒラメの稚魚、タカアシガニ、アワビの放流に支援を行い、保護育成、水産資源の維持や増大に努めております。

次に、消費の拡大に向けた取り組みといたしましては、魚食離れに対して、子供が魚と触れる、魚の調理方法を知る、魚や生産者とのつながりについて知るなどの機会が減少していることも魚離れの一因であると考えられるため、漁協青壮年部と連携し、次代を担う市内の未就学児童を対象に、漁師と交流する機会や生きた魚と触れ合う体験教室のほか、小学生を対象にわかめの養殖体験等の活動を行うなど、幼少期からの魚食への関心や普及に努めております。

また、本市が全国に誇る特産品である「あじのひもの」を水産加工業の団体と連携し、市制施行日となる7月1日の「沼津ひものデー」や、地域団体商標登録された「沼津ひもの」を全国に向け情報発信し、各種イベントへの出展などの活動を通し、地場産品を知っていただく機会を設けPRをしており、昨年度は「沼津ひものデー」に合わせ、市役所玄関前でひものなどの販売を行いました。

さらに、市のホームページやSNSを通じて市内の水産業者の自慢の逸品をPRするなど、地産地消に努めております。

次に、水産業の振興に欠かすことができない販路拡大の取り組みといたしましては、本市特有の地域資源である深海魚等をブランド化し、首都圏に向けたマーケティングを行うほか、漁業協同組合とも連携して、首都圏のみならず、新たな経済交流圏として注目されている山梨県をはじめとする「海のない県」をターゲットに沼津産鮮魚や加工品の移動販売にも取り組んでおります。

また、ふるさと納税の返礼品においても、本市のひものを中心とした水産物は、人気ランキングの上位になっており、ひものまち沼津として全国的に認知されております。

今後も、このような漁業者に対する支援や消費者に対する取り組みを継続し、古くから豊かな自然の恵みを与えてくれる美しい海を守りながら、「海のまち沼津」という誇りをもっていただけるよう、更なる水産業の振興に努めて参りたいと考えております。

今年は、市制施行100周年という記念となる年です。10月28日（土）・29日（日）には「Sea級グルメ全国大会 in 沼津」が沼津港で開催されます。その全国大会の周知、機運を高めるため、ひとあし早くプレイベントを2月4日（土）に沼津港で開催します。

皆様、ぜひ、お越しく下さい。

○議長（田尻 勇人）

以上で一般質問は終了いたしました。

○議長（田尻 勇人）

次に、日程第3、二十歳の一言を行います。

二十歳の一言、「わたしにとっての沼津のきらり」について、質問者以外の議員から、発言願います。

今年7月に、沼津市は市制100周年を迎えます。沼津で過ごした私たちが考える、沼津のきらりとする魅力について、各議員に発言していただきます。

では、1番議員から順番に発言願います。

○1番 長瀬 優樹 議員

「わたしにとっての沼津のきらり」は、オタク文化です。

2006年にアニメイト沼津店が開店し、2015年に沼津を舞台とした作品「ラブライブ！サンシャイン!!」のプロジェクトが始動、2016年にはゲーマーズ沼津店が開店しました。このように、ここ数年で沼津は、世界中のアニメオタク達に愛される街になりました。オタク文化がもたらす沼津への利益は凄まじく、特に「ラブライブ！サンシャイン!!」は聖地として、沼津の観光業に多大な貢献をしています。また、アニメ、コミック、ゲームなどの大手販売店であるアニメイトとゲーマーズがどちらもあるのは、秋葉原を始めとして、池袋、横浜、名古屋など、この地球上で全15か所しかなく、とても貴重なまちでもあります。

私は、これからも、この沼津がオタク文化とともに大きく発展していくまちであってほしいと思っています。

○2番 富田 愛夏 議員

「わたしにとっての沼津のきらり」は、温かさです。

私は、高校を卒業すると同時に、大学進学のため沼津を離れましたが、都会では地元とは違った空気感で、地元の温かさやのありがたみを感じています。そのような温かい空気感がどこから来るのか考えたとき、例えば、学生時代、登校する際にすれ違った近所の方や、横断歩道を渡るときに道を譲ってくれる方など、一人一人の行動が積み重なることによって、沼津全体の温かさとなっていると思います。

また、ぬまづパンまるしゅやクリスマスイベントなど、沼津の活気と人々の交流を深めるイベントが思い浮かびました。このような催しがあるおかげで、ますます沼津の温かさを感じることができると思います。これからも、このようなイベントを大事にしていき、私も積極的に参加したいと思いました。そうすることによって、ますます沼津の温かさを感じることができると思います。こ

れが「わたしにとっての沼津のきらり」です。

○6番 芳賀 愛子 議員

「わたしにとっての沼津のきらり」について、私はとても悩みました。なぜなら、私の身の回りには、たくさんのきらりと光るものがあるからです。例えば、私の出身の門池地区にある門池公園はとても自然豊かで、特に春の桜並木はとても美しく、まさにきらりと光る魅力を持っていると思います。他の地区にも、私の知らないきらりがたくさんあることでしょう。

また、今この場にいる、沼津に生まれ育ち、二十歳という節目を迎え、そしてこれからの沼津を担っていく私達自身も、沼津のきらりだと言えらると思います。

私は、二十歳としての自覚と責任感と、身の回りのきらりを大切にこれからも生活していきたいと思ひます。

○5番 柳内 雄翔 議員

「わたしにとっての沼津のきらり」は、豊かな自然にあります。

私は、現在大学生となり、沼津市を離れ、他県で1人暮らしをしています。名古屋、三重などに住む友人がいますが、大半の人が沼津のことを知ってくれており、友人達は口をそろえて、沼津の豊かな自然について褒めてくれています。富士山を望めることや、先ほどの質問でもあったように、駿河湾からとれる海の幸といったことを言っていました。実際にその海の幸を食べるため旅行しに来てくれる友人達もいます。

また、帰省をしたときに、富士山のおいしい地下水をいつも飲めることや、温暖でとても過ごしやすい気候であるということが沼津の魅力だと感じました。こうしたことが、みんなに誇れるような、沼津のきらりであると私は考えます。

○13番 真野 将希 議員

「わたしにとっての沼津のきらり」は、「寿太郎」を始めとした温州みかんです。

「寿太郎みかん」は、1975年から50年弱、沼津市とともに、長い歴史を歩んできました。その長い歴史の中で、沼津のみかんはブランド化が進み、果実単体だけではなく、ワイン、ジュース、茶葉といった加工品も生まれました。また、観光農園が出来たことで、市内外問わず多くの人が、みかん狩りを身近に体験できるようになりました。酸味と甘みのバランスが良いみかんを自分の手で取れること。畑から見える富士山の景色も相まって、より多くの人々の輝く笑顔をつくることが、沼津のみかんが魅力であることの理由だと思います。

みかん農家で育ってきた私は、この沼津のみかんを誇りに思い、輝く魅力を、先の未来にも、残していけるように努力していきたいです。

○7番 永田 稜弥 議員

本年、沼津市は市制 100 周年を迎えます。この長い歴史の中で、自然の豊かさや人々の温かさなどは、市民が一丸となって守ってきた普遍的な沼津の魅力であると感じます。

また、100 年の歴史の中で、沼津市は様々なことが変化していると思います。私が住む金岡校区でも、都市計画道路の工事が進んでいます。私は、現在東京で暮らしており、沼津に帰省の度に、住みやすいまちに変化していて嬉しく思います。

さらに、沼津には家族のように接してくれる人がたくさんいます。私は、皆さんの温かさに包まれて成長しました。感謝の思いでいっぱいです。そのような沼津を愛する人の思いに、より変化を重ねて、よりよい地域を実現していることが、沼津にとってのきらりだと私は思います。

○9番 小野 隆太郎 議員

小さい頃から私は、どこに行くにも自転車が一緒でした。友達と遊ぶときはもちろん、少し遠くの駄菓子屋に行くときも、自転車が私の相棒でした。そんな私が考える沼津のきらりは、サイクリングスポットです。

沼津には様々な景色がありますが、少し自転車を走らせるだけで、全く異なる景色を見ることが出来ます。大学生となり、沼津以外でサイクリングをするようになった今でも、沼津の景色は格別に思えます。その中でも私の一押しは千本浜の防潮堤です。ずっとカーブしながら続いていく海岸線を走っていると、晴れ晴れとした気分になります。これが「わたしにとっての沼津のきらり」です。

○17番 佐々木 亮太 議員

私の考える沼津市のきらりと輝く魅力は、住みやすさです。

私は、現在 18 年間過ごした沼津から離れ、大学生として 1 人暮らしをしています。そこで感じた沼津市の魅力として、初めに気候があります。沼津市には狩野川、愛鷹山があり、また、駿河湾という自然に恵まれています。そのため、年間を通じて温暖な気候に恵まれており、冬でも暖かく肌が乾燥しません。私自身にとって優しい気候であり、とても住みやすいなと感じております。

次に、感じた魅力は、0 歳から高校 3 年生相当年齢まで医療費が無料ということです。私が現在住んでいる地域では、沼津市のように、子供の医療費が無料ということはありません。このような広い対象年齢で、かつ所得制限なしで、子供の医療費が無料という地域は多くありません。これは子育てにおいても、子供の健康を守るためにも、非常に重要な役割を担っていると考えています。このような理由から、沼津市の魅力は住みやすさと考えております。

○15番 杉山 龍輝 議員

富士山や愛鷹山、そして駿河湾という自然は、沼津の誇りです。また、駿河湾沼津スマートインターチェンジが出来て、交通の便がさらに良くなりました。農産物、海産物も豊富で、いろんな面

で住みやすい、生活しやすいまちだと思います。これが「わたしにとっての沼津のきらり」です。

○14番 殿岡 連 議員

私にとっての沼津の魅力は、フェンシングを通じたまちづくりを行っていることです。

沼津では、フェンシング協会と連携して、トップ選手を輩出しており、沼津がフェンシングを代表するまちになることで、沼津を盛り上げようとしています。

私は、高校生のとき、フェンシング部に所属しておりましたが、フェンシングには、刹那の瞬間の判断が、勝敗を決める楽しさがあります。この楽しさを多くの人に伝えることで、沼津市民にスポーツを行う機会が生まれ、地域活性化、健康増進など、多くのことが期待できます。

現在、沼津市では、フェンシングを行えるイベントを開き、多くの人に参加し、交流を深めています。このような活動を続け、また、次世代につなげることで、トップ選手の輩出や、更なる沼津市の発展につながると私は思います。よって、私は、フェンシングを通じたまちづくりが、沼津市のきらりだと思います。

○3番 大原 伊織 議員

「わたしにとっての沼津のきらり」は、豊かな自然だと考えます。

私の実家は、海に程近く、幼稚園に上がる前から、祖父に連れられて、よく海に遊びに行きました。また、自分が陸上競技を小学生のときから続けていることもあり、砂浜や山道といった場所は、私にとっては絶好の練習場でした。また、友人と遊ぶ際も、私は市街地に行くことよりも、海や山に行くほうが好きだったため、海や山には、友達と過ごした大切な思い出もたくさんあります。大学生になり、沼津市を離れた今、そのことを振り返ると、自然に囲まれて過ごした毎日が、いかにかけがえのないものであったかを実感するばかりです。沼津の豊かな自然があったからこそ、自分は心身ともに成長することが出来たと考えています。

沼津は、今も昔も変わらず私の自慢のふるさとですが、これからは、沼津にとっても、自分が、自慢できる市民の1人であるように、日々目標に向かって精進していきたいと思います。

○4番 芹澤 隆太 議員

「わたしにとっての沼津のきらり」は、スポーツのまち沼津です。

私は、小学生の頃から沼津で野球をやっておりました。その際に使用していたグラウンドや球場はとても綺麗に整備をされており、気持ちよくプレーすることが出来ました。当時は当たり前と思っていた光景も、今思えば、各協会関係者や団体役員の方々の熱意あるサポートのおかげだと感謝しています。沼津の子供達や市民の皆さんが安全にスポーツをできる施設や体制と組織があることは、沼津のきらりだと確信しております。

3月には素晴らしい新総合体育館が完成予定です。ますます大勢の市民が運動し、競技を楽しむ機会が増えることでしょう。今後も、スポーツを通じて市民の健康を促進し、元気で活力のある沼

津であってほしいと願います。

○10 番 石川 結麻 議員

「わたしにとっての沼津のきらり」は、地域住民の方々の温かさです。

沼津と言えば、海と山が近くにあり、自然に触れ合う機会が多いことや、他に住みやすい天候などが挙げられますが、沼津を離れ、1人暮らしをしたことで、地域の方々の温かさをより感じました。また、私は幼い頃からバスケットを行っていましたが、不自由なく行えたのも、私たちの周りで温かく見守ってくださった方々がいたからだと改めて感じました。このような魅力を、ほかの地域の方々に知ってもらえるように、私自身も情報発信していきたいです。

○18 番 趙 子毅 議員

本日、各議員、市長、教育長の皆様の話を聞いて、私は、本当に良いまちで育ったなと改めてしみじみ感じました。私はテーマのきらりを聞き、涙を思い浮かべました。きらりと流れ落ちる涙、20歳の私から見て、その涙は100年前から、今後にも続く、児童、少年、青年が流す成長の涙、そして、それを見守る親、地域、町が流す感動の涙かと思えます。その涙の裏側には、この沼津という素晴らしい環境で起きた描き切れないほどの思い出や物語があると思えます。この涙は宝です。沼津というまちが、今後も栄え続けるための礎だと思えます。「わたしにとっての沼津のきらり」は、この環境で流れ落ちた涙だと思えます。

○議長（田尻 勇人）

最後に、議長の私、田尻勇人から一言発言します。

「わたしにとっての沼津のきらり」は、沼津はまだまだ可能性に満ちあふれているという点です。先の皆さんの発言から、その思いはより確信に近づきました。私たちの住む沼津市は、駿河湾、愛鷹山といった自然豊かでありながら、比較的温暖であり、沼津駅の南には商店街、沼津港、国道1号線沿いには大型商業施設があるなど、各施設も充実しております。そんな住みやすい沼津に、私はこれからも生活したい、生活していきたいと思えますし、その良さを広めていきたいと思えます。

近年新型コロナウイルスの逆風を受けながらも、去年は夏まつりも開催され、観光客も増えることで、沼津がまた活性化していることを私は感じました。再び活性化してきた今年、市制100周年を迎える沼津市が、次の100年で、よりよいまちになることを私は信じています。

○議長（田尻 勇人）

以上で、二十歳の一言は終了いたしました。

○議長（田尻 勇人）

以上で、本二十歳の議会の日程は終了いたしました。

○議長（田尻 勇人）

ここで市長から発言を求められておりますので、許可いたします。

○市長（頼重 秀一）

本日は、二十歳の議会にご出席賜りまして、誠にありがとうございました。

1月4日には戸田校区で、本日は市内16校区で「二十歳の集い」が開催され、久しぶりに同級生や地域の皆様、さらにお世話になった恩師の先生方との再会があったかと思えます。そのような貴重な時間を割き、本会議にご出席いただいたことに対しまして、改めて、市長として心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

本日の本会議に臨むに際して、私は2つの視点から皆様の様子を見させていただきました。

まず、1つ目は、私事で大変恐縮ですが、私には2人の子供がいます。長男は24歳、長女が21歳ですので、私にとって皆様は子供世代です。そのような方々がこの本会議の席において、堂々と発言をされている様子を見て、本当に素晴らしいと感じました。

2つ目は、私自身が20歳だったとき、また34歳で市議会議員となってこの本会議場において発言をしたときに、皆様のように堂々と自らの考え方、主義主張、哲学や想い等を述べることができたか、そんなことを考えながら皆様の様子を見させていただきました。本当に、本日もご出席された皆様は素晴らしいの一言です。

今回は、3人の議員から質問がありました。

最初に、守屋議員からは、子育て支援に関して、ご自身の考え方を伺いました。少子化は非常に深刻な状況になっていますが、これから、皆様が子育て世代になるという視点で捉えていただいていると感じています。課題解決に向けて本市がどのように取り組んでいくのか、喫緊の課題であることを改めて感じさせていただきました。

続いて山本議員からは、小中一貫教育に関して、教育長から答弁をいたしました。山本議員自身も、教職員を目指し、現在様々な取組、また学びを深めていることと思いますが、小中一貫教育に関するメリットデメリット、中1ギャップなどの様々な専門的なお話が出ました。子育て、そしてこれからの未来を担う人材育成は非常に重要なテーマであると考えています。ご発言を参考にさせていただきながら、より良い教育環境の整備のために、教育長と連携をしまいたいと思います。

最後に、村木議員からは、沼津の水産業に関する質問がありました。先ほど来の答弁の中にありましたように、本市は63キロもの海岸線を有するまちであり、また沼津という地名からも、歴史的にも、水産業とは切っても切れないものです。厳しい状況ではありますが、水産業という本市にとって重要な産業をいかに守り育てるか、維持するか、ご指摘いただいた内容をしっかりと受け止めて、検討させていただきたいと思います。

そして、質問者以外の議員の皆様からは、「わたしにとっての沼津のきらり」について、たくさ

んのお話をいただきました。多くの方々から、沼津の持つ特性、住みやすさ、気候の温かさ、そして恵まれた自然環境、そして何よりも、やはり住んでいる方々の素晴らしさが沼津の誇りであるというお話をいただきました。

また、長瀬議員からは、アニメのお話が出ましたが、ラブライブ！サンシャイン!!の経済波及効果は50億円という試算もでております。このような取組も大変重要であると捉えています。

さらに、何人かの議員からはスポーツについて触れていただきました。本市においては、スポーツを活用したまちづくりに取り組んでいるところです。「スポーツを行うなら沼津」となるような取組をこれからもしっかりと行ってまいりたいと思います。

そして、涙のお話ができました。本市では市政施行100周年を迎えるに際し、4つのコンセプトを掲げていますが、その1つ目が「先人たちに対する感謝と敬意」です。先人達が、いろいろな努力を積み重ねてきたからこそ、今日があるものだと思えています。その中には、嬉しかったことも悲しかったことも様々なことがあったかと思えます。そういうものを大切にすることは極めて重要ではないかと捉えています。

最後に議長からは、沼津の可能性についてお話がありました。これまで皆様から挙げていただいた沼津の魅力を伸ばし、また新たな魅力を発見し、発信することで、更に活気あるまちにしていきたいと思いますので、これからの沼津市に大いに期待していただきたいと思えます。

皆様は、これからの沼津の未来を担う人材であると私は考えています。次の100年に向けた新たな一歩を踏み出すためには、本日ご出席されている議員の皆様のような、エネルギッシュで柔軟な発想力、行動力、そして強い沼津に対する熱い思い、貴き志を持っている方々の存在が極めて重要であると捉えています。

本市が、今後更に発展していけるよう、皆様の力が必要です。沼津に対し、一層関心を持っていただき、この沼津市役所を就職先の1つに選んでいただければ大変ありがたいと思えます。ぜひともよろしく願い申し上げます。

これから皆様が歩いていく道のりは、良いことばかりではないかもしれません。私の経験においても、本当に辛いこともあります。しかし、一生懸命頑張っている方を一生懸命応援しようとする方々は必ずいます。大変なとき、辛いとき、そんなときは、そういった方々に声をかけて、自分の悩みや苦しみなどを訴え、未来に向かってプラス思考で歩いていただきたいと思えます。

また、全ての経験は何ひとつ無駄なものはありません。全てのものを糧として、どうか大いに飛躍していただきたいと思えます。皆様の、今後幸多からんことを心からご祈念申し上げ、閉会に際しての市長の挨拶にかえさせていただきます。

本日はお疲れ様でした。

○議長（田尻 勇人）

これをもって、令和5年第25回、沼津市二十歳の議会を閉会いたします。

ご苦労様でした。



←当日の様子はこちらから
(市公式 YouTube 二十歳の議会)

令和5年第25回

沼津市二十歳の議会会議録

令和5年1月発行

編集・発行 沼 津 市
沼津市教育委員会